

席田平尾遺跡 1

－第1次調査報告－

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1404集



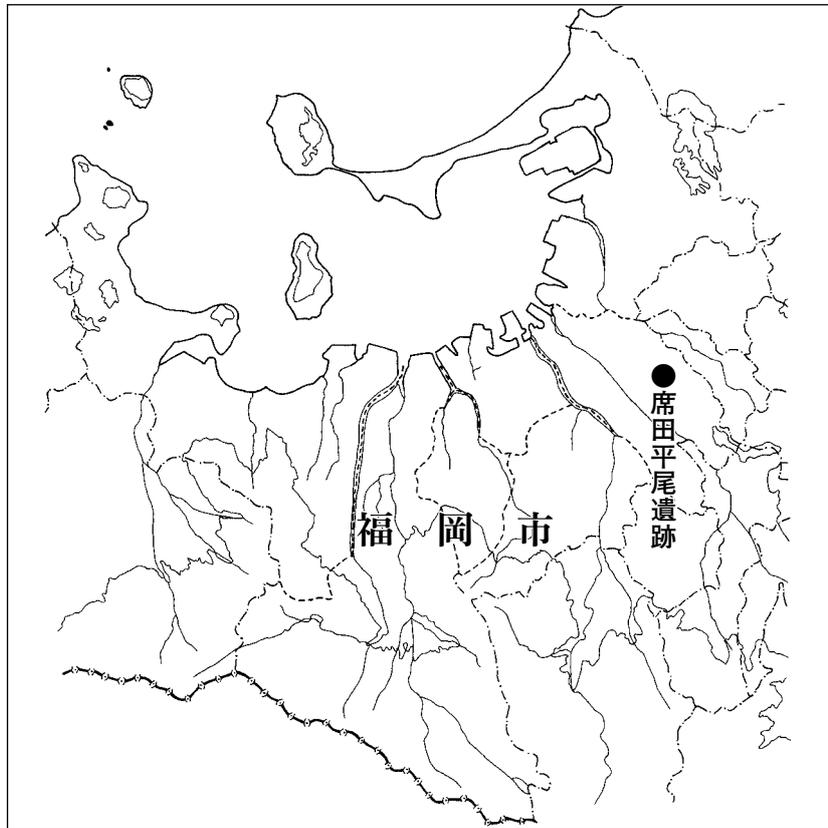
2020

福岡市教育委員会

むしろ だ ひら お
席田平尾遺跡 1

— 第1次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1404集



調査番号 1726
遺跡略号 MAH-1

2020

福岡市教育委員会

序

古くから大陸文化を受け入れる窓口として栄えていた福岡市には、数多くの文化財が存在しています。福岡市教育委員会では、開発に伴いやむを得ず失われていく埋蔵文化財について、事前に発掘調査を実施し、記録による保存に努めているところです。

本書は、福岡空港内で車両整備工場建設に伴い行われた席田平尾遺跡第1次発掘調査について報告するものです。今回の調査では奈良時代の水田跡や河川の跡が発掘されました。

本書が市民の皆様の埋蔵文化財に対するご理解を深める一助となりますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行にいたるまで、JALエアテック様をはじめ、多くの方々のご理解とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

令和2年3月25日

福岡市教育委員会
教育長 星子 明夫

例 言

1. 本書は、福岡市博多区大字東平尾字杭田718-1（福岡空港内）の車両整備工場建設に伴い、福岡市教育委員会が2017（平成29）年10月18日から12月28日にかけて発掘調査を実施した席田平尾（むしろだひらお）遺跡第1次調査の報告書である。
2. 遺構の呼称は記号化し、溝→S D、その他→S Xとした。遺構番号は種類に関係なく連番とした。また、水田、畦畔、杭列はそれぞれアルファベットで区別した。
3. 本書に使用した遺構実測図は田上勇一郎が作成した。遺物実測図は平田春美が作成した。また、製図には篠田千恵子、増永好美、本田浩二郎、田上があたった。
4. 本書に使用した写真は田上が撮影した。
5. 本書に使用した標高は海拔高である。
6. 本書に使用した方位は座標北である。
7. 本書の編集・執筆は田上が行った。
8. 本調査にかかわるすべての遺物・記録類は、福岡市埋蔵文化財センターにおいて、収蔵・公開される予定である。

| | | | | | |
|-------|--------------------------|--------|-------|------|------|
| 調査番号 | 1726 | 遺跡略号 | MAH-1 | | |
| 調査地地籍 | 博多区大字東平尾字杭田718-1（福岡空港内） | 分布地図番号 | 雀居 23 | | |
| 開発面積 | 2,200㎡ | 調査対象面積 | 756㎡ | 調査面積 | 740㎡ |
| 調査期間 | 2017（平成29）年10月18日～12月28日 | | | | |

目 次

| | |
|---------------------|----|
| I はじめに | 1 |
| 1. 調査にいたる経緯 | 1 |
| 2. 調査の組織 | 1 |
| 3. 調査地点の立地と環境 | 2 |
| II 調査の記録 | 4 |
| 1. 調査の経過と概要 | 4 |
| 2. 第1面の調査 | 8 |
| 3. 第2面の調査 | 12 |
| 4. 第3面の調査 | 14 |
| III まとめ | 16 |

挿図目次

| | | |
|--------|---------------------------------|----|
| Fig. 1 | 周辺の遺跡と調査地点の位置 (1/25,000) | 3 |
| Fig. 2 | 調査区域図 (1/2,000) | 4 |
| Fig. 3 | 調査区北壁土層図 (1/50) | 5 |
| Fig. 4 | 調査区南壁土層図 (1/50) | 6 |
| Fig. 5 | 第1面遺構分布図 (1/200) | 7 |
| Fig. 6 | S D 0 1 土層図 (1/40) | 8 |
| Fig. 7 | S D 0 1 ・ 0 3 出土遺物実測図 (1/3) | 9 |
| Fig. 8 | 杭列A実測図 (1/40) | 10 |
| Fig. 9 | 第1面水田出土遺物実測図 (1/3) | 10 |
| Fig.10 | 第2面遺構分布図 (1/200) | 11 |
| Fig.11 | 杭列B・C実測図 (1/40) | 12 |
| Fig.12 | 第3面遺構分布図 (1/200) | 13 |
| Fig.13 | 第3面水田足跡実測図 (1/40) | 14 |
| Fig.14 | 杭列D実測図 (1/40) | 14 |
| Fig.15 | 杭列E実測図 (1/40) | 15 |
| Fig.16 | 周辺調査区と推定旧流路 (昭和初期地形図) (1/5,000) | 16 |

図版目次

| | | | |
|-------|---|-------|---------------------|
| PL. 1 | (1) 第1面水田 (南から) | PL. 5 | (1) S D 0 5 (南から) |
| | (2) 調査区南壁 S D 0 1 ・ S D 0 3 土層 (北から) | | (2) 畦畔A (南から) |
| PL. 2 | (1) 調査区北壁 S D 0 1 土層 (南から) | PL. 6 | (1) 第3面水田 (南から) |
| | (2) S D 0 1 中央土層 (南から) | | (2) 畦畔B (南から) |
| PL. 3 | (1) 調査区南壁 S D 0 1 土層 (北から) | | (3) 畦畔B (北西から) |
| | (2) 調査区南壁 S D 0 3 土層 (北から) | | (4) 畦畔D (東から) |
| | (3) 杭列A西 (南から) | | (5) 畦畔F (北から) |
| | (4) 杭列A東 (南から) | PL. 7 | (1) 水田⑦足跡検出状況 (南から) |
| PL. 4 | (1) 第2面水田 (南から) | | (2) 水田⑦足跡掘削状況 (南から) |
| | (2) 杭列B・C (北西から) | PL. 8 | (1) 水田⑦足跡掘削状況 (西から) |
| | (3) 杭列B・C (南東から) | | (2) 杭列D北 (西から) |
| | (4) 杭列B (東から) | | (3) 杭列D南 (西から) |
| | (5) 杭列C (東から) | | (4) 杭列E (西から) |

I はじめに

1. 調査にいたる経緯

福岡市教育委員会は2017（平成29）年2月1日付けで、株式会社JALエアテックより、福岡市博多区大字東平尾字杭田781番地1における車両整備工場建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会を受理した。

これを受けて経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課事前審査係では、申請地が上牟田遺跡の範囲内であることから確認調査が必要と判断した。確認調査は8月28日に実施し、2面の水田遺構を確認した。

確認調査の結果をふまえ、申請者と遺跡の取り扱いについて協議を行い、建築工事によって影響がある部分を対象に本調査を実施することで合意した。

その後、2017（平成29）年10月11日付けで株式会社JALエアテックを委託者、福岡市長を受託者として埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、同年10月18日より12月28日まで発掘調査を実施し、2018・2019（平成30・31・令和元）年度に資料整理および報告書作成を行った。

なお、上牟田遺跡の上牟田という地名は今回の調査地点から大きく離れているため、2017（平成29）年10月27日付けで大字東平尾にあたる範囲を席田平尾遺跡に名称を変更している。

2. 調査の組織

発掘の調査・整理にあたっての組織は以下の通りである。

調査委託 株式会社JALエアテック

調査主体 福岡市教育委員会

（発掘調査：平成29年度・資料整理：平成30・31・令和元年度）

調査総括 福岡市経済観光文化局文化財部（30年度より文化財活用部）

| | | | |
|------|--------|--------------|--|
| | 埋蔵文化財課 | 課長 | 常松幹雄（29年度） 大庭康時（30年度） 菅波正人（31・令和元年度） |
| | | 調査第1係長 | 吉武 学 |
| 庶 務 | 文化財保護課 | 管理調整係長 | 藤 克己（29年度） |
| | | 管理調整係 | 松尾智仁（29年度） |
| | 文化財活用課 | 管理調整係長 | 藤 克己（31・令和元年度） 松原加奈枝（31・令和元年度） |
| 事前審査 | 埋蔵文化財課 | 事前審査係長 | 本田浩二郎 |
| | | 事前審査係主任文化財主事 | 池田祐司（29年度） 田上勇一郎（30・31・令和元年度） |
| | | 事前審査係文化財主事 | 中尾祐太（29・30年度） 朝岡俊也（30・31・令和元年度） |
| 調査担当 | 埋蔵文化財課 | 調査第1係主任文化財主事 | 田上勇一郎（29年度） |
| 整理担当 | 埋蔵文化財課 | 事前審査係主任文化財主事 | 田上勇一郎（30・31・令和元年度） |

3. 調査地点の立地と環境

席田平尾遺跡は御笠川が形成する沖積平野の東際に立地し、東には月隈丘陵が南北に延びている。

月隈丘陵上には数多くの遺跡が残されている。弥生時代の前期の甕棺・木棺墓群である下月隈天神森遺跡からはじまり、前期末～後期初頭の国指定史跡である金隈遺跡、研ぎ分けの中細形銅剣が副葬されていた中期の上月隈遺跡、中期後半～後期初頭の下月隈B遺跡・席田青木遺跡などの墳墓群や、大型掘立柱建物がある久保園遺跡、銅鐸鑄型が出土した席田大谷遺跡（赤穂ノ浦遺跡）などの集落遺跡がある。古墳時代後期には席田青木古墳・北ノ浦古墳・宝満尾古墳・水町古墳・今里不動古墳などの単独墳や貝花尾古墳群・新立表古墳群・席田大谷古墳群・丸尾古墳群・下月隈天神森古墳群・立花寺古墳群などの小規模な古墳群、影ヶ浦古墳群や堤ヶ浦古墳群、持田ヶ浦古墳群などの群集墳が存在している。古代では立花寺遺跡で7世紀の総柱建物や長舎建物、区画溝が（5・6次調査）、9世紀の総柱建物群や長舎建物が検出され、越州窯青磁や邢州窯白磁、緑釉陶器などが出土している（2次調査）。席田郡内西側を通る大宰府水城東門へ続く官道に置かれた「久邇駅」もしくは『古今著聞集』に見える「菟田駅」に関連する遺跡と考えられる。

御笠川東岸の沖積平野上には雀居遺跡や下月隈C遺跡といった弥生時代早期～古墳時代前期の集落遺跡が微高地上に営まれており、古代以降は水田として利用されている。古墳時代では5～6世紀の集落が立花寺B遺跡（6次調査）で確認されている。古代では緑釉陶器や粗製の越州窯系青磁が出土し、官衙的施設が想定される9世紀後半～10世紀の立花寺B遺跡（2次調査）、10～11世紀の集落が発見された雀居遺跡（2・3・8次調査）がある。

1944（昭和19）年に旧陸軍が民有地を接收し、席田飛行場として整備する以前は条里地割を留める水田が広がっていた。席田郡の条里地割は西に37°振れている。

席田平尾遺跡は福岡空港内にあり、本格的な発掘調査は今回が初めてである。近隣の調査は北西200mで席田青木遺跡7次調査地点、南250mで久保園遺跡4次調査地点が存在する。どちらの遺跡も大部分は丘陵部に立地するが、この2か所の調査地点は低地部にあたる。

席田青木遺跡7次調査は2009（平成21）年に航空機給油関係大型車両の整備工場新設に伴い422㎡を対象に行われた。

残りが悪いものの、標高4.2～4.6mで8世紀後半の水田3枚と南北方向の自然流路を確認している。水田区画のおおよその方位は条里地割と異なっており、地割施行前の水田と考えられる。

「萬」と墨書された須恵器の皿が自然流路から出土している。

久保園遺跡4次調査は2008（平成20）年～2010（平成22）年に航空機駐機場増設に伴い6,300㎡を対象に行われた。

第1面は8世紀後半～9世紀の水田や流路、水溜状の大型土坑などが検出された。8世紀後半に丘陵からの土で客土し、長方形区画の水田が構築されている。水田には人間やウシなどの偶蹄類の足跡が認められ、畦畔および畦畔を補強したと考えられる杭列が確認されている。水田区画は条里地割と合致している。水田からは「宋」の墨書がある須恵器の高台付椀が出土している。水溜状の大型土坑は流路からの導水した水を溜める、水田に給水する、流路の氾濫時の緩衝および水溜めの役割が想定されている。水溜遺構の一つからは「十」、「向」、「上」などの文字が書かれた墨書須恵器が8点出土している。

第2面では弥生時代中期中葉～古墳時代前期の掘立柱建物、溝、自然流路、水田など、第3面では弥生時代中期前葉の溝が検出された。

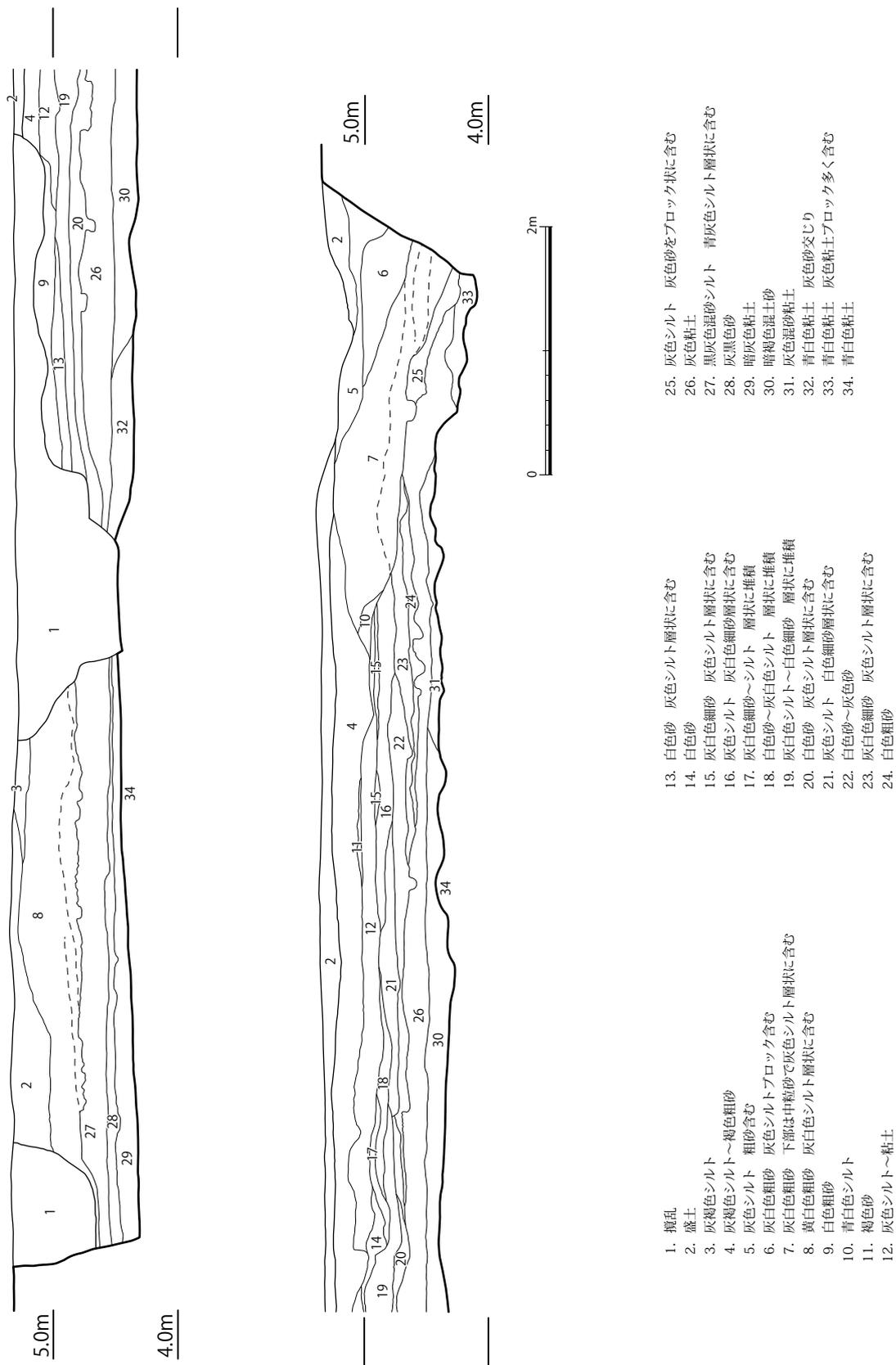


Fig.3 調査区北壁土層図 (1/50)

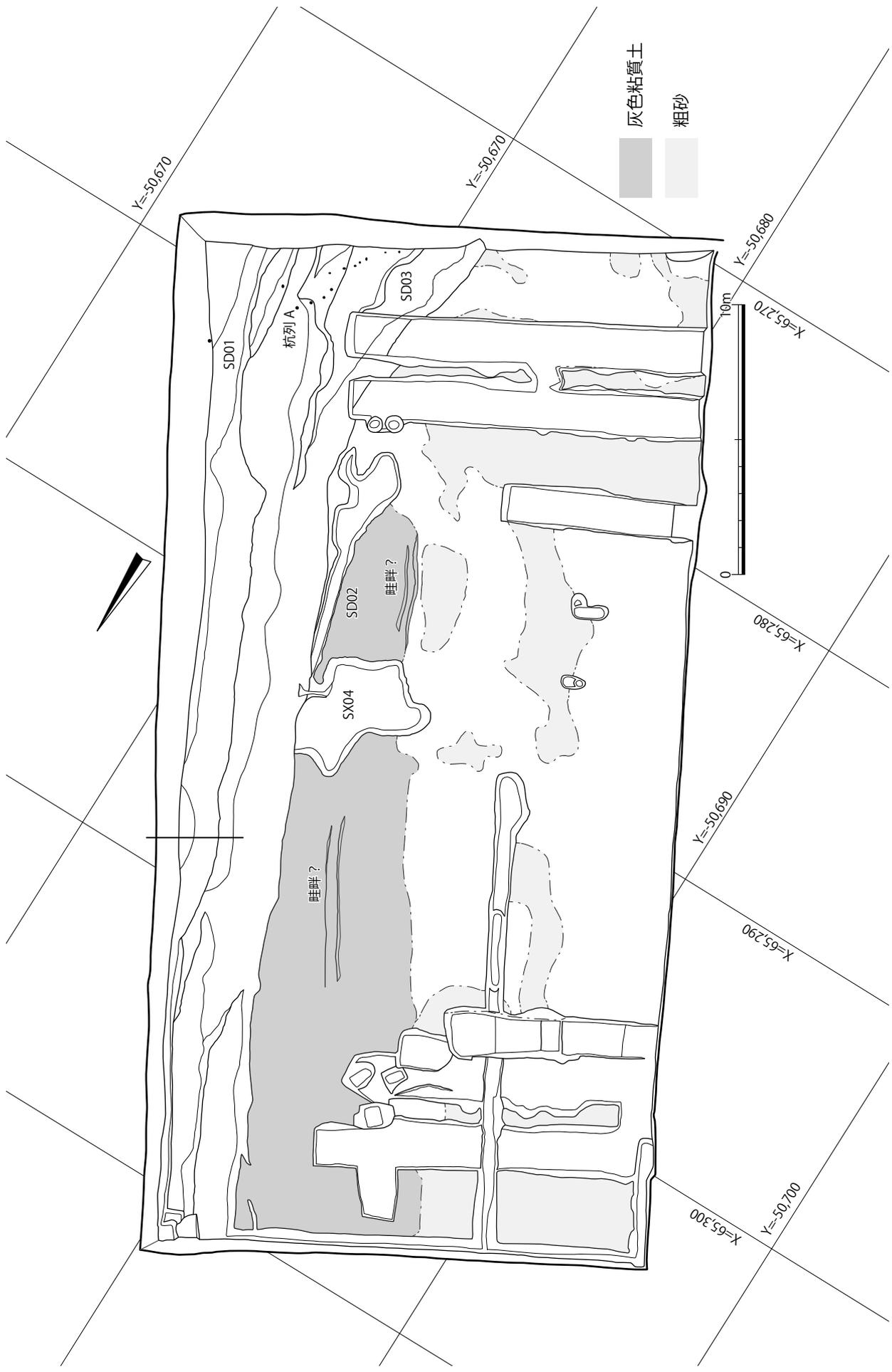


Fig. 5 第1面遺構分布図 (1 / 200)

2. 第1面の調査

重機により北東側から遺構面を検出した。Fig.3北壁土層図の4層：灰褐色シルト～褐色粗砂を取り除くと12層：灰色シルト～粘土の層となったため、この面を第1面の水田面とし、広げることにした。標高は5.1～5.2mである。しかしながら、灰色シルト～粘土の層は北東部しか広がらず、大部分は青灰褐色混砂シルトの層であった（Fig.4南壁土層図の45層）。また、一部は下層の粗砂層が露出した（北壁土層図の8・9層、南壁土層図の47層）。このように第1面水田は非常に残りが悪いため、足跡状のくぼみは残っていない。畦畔とみられる高まりも2か所しか確認できなかった。いずれも南北方向で、高まりは10cmに満たない。

SD01・03

調査区東側では自然流路が確認された。東岸は調査区外に延びる。大部分は粗砂で埋没しているが（Fig.3北壁土層図の6・7層、Fig.6）、南にいくに従い、西岸際の覆土が暗灰色シルト（Fig.4南壁土層図の15層）や暗灰色粘土（同18層）になっているため、水田との境が明瞭ではなかった。底から掘っていくことで流路の岸を押さえることができた。

この自然流路はSD01として北側から調査を開始したが、出土遺物も少ないため、南側3分の1は重機で掘削することにした。完掘後、調査区南壁で土層観察をしたところ、同じく白色粗砂を覆土とする（Fig.4南壁土層図の44層）SD03と重複していることが判明した。SD03はSD01より古く、やや東に振れて南北に流れている。

出土遺物をFig.7に示す。1～5は調査区北側で出土しているのでSD01出土のものであろう。6～15は調査区南側出土で、SD01・03のいずれかの出土である。

1は須恵器甕。口縁部の小片である。復元口径20cm、残存高4.2cm。2は須恵器の小型甕。口縁部の小片である。口縁直下に沈線が2条めぐる。焼成はやや不良で、表面は灰色だが内部は赤褐色を呈する。復元口径15cm、残存高3.3cm。3は須恵器の椀。口縁部から体部の小片で復元口径13.6cm、残存高2.8cm。4は土師器の坏である。残存率80%。口径10.6cm、底径5.1cm、器高4.4cm。内外面にミガキ調整。外面体部下半はケズリのちミガキ。5は土師器の坏である。残存率30%。口径13.0cm、底径8.0cm、器高4.0cm。表面は摩滅や剝離が著しいが、回転横ナデの痕跡が見られる。6は須恵器の坏身である。残存率20%。復元口径12.0cm、残存高6.0cm。7は須恵器の坏蓋の摘み部分である。焼成はやや不良で、表面は灰色だが内部は赤褐色を呈する。胎土に白色砂粒を多く含む。摘み径3.0cm、残存高1.3cm。8は須恵器の坏身。高台部と底部の小片で復元高台径9.0cm、残

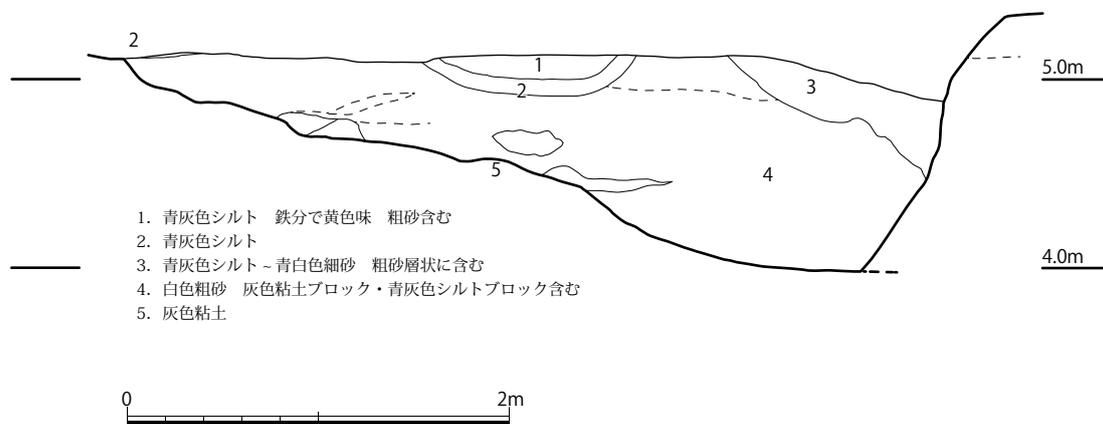


Fig.6 SD01土層図 (1/40)

存高1.5cm。焼成は不良で灰白色から灰橙色を呈し、軟質である。**9**は土師器の椀。残存率40%。内外面に丁寧なミガキ調整。外面黒塗り。復元口径18.2cm、残存高5.5cm。**10**は土師器の坏である。残存率20%。器面は摩滅している。復元口径14.4cm、残存高3.3cm。**11**も土師器の坏である。残存率20%。器面は摩滅しているが内外面にミガキ調整が認められる。外面黒塗り。復元口径13.0cm、底径7.0cm、残存高3.5cm。**12**も土師器の坏である。残存率20%。内外面にミガキ調整。復元口径14.4cm、残存高3.3cm。**13**は土師器の皿である。残存率40%。回転ヨコナデで底部はケズリのちナデ。灰白色を呈し、口縁付近は暗灰色。復元口径17.2cm、復元底径14.6cm、器高2.3cm。**14**も土師器の皿である。残存率30%。内外面にミガキ調整。復元口径18.6cm、復元底径15.0cm、器高2.0cm。**15**は土錘。灰白色を呈する。摩滅しているが完形である。長さ3.7cm、最大径1.8cm。

以上の出土遺物はおもに8世紀後半の時期である

杭列A

調査区南東で検出した杭列である。4mの間に11本確認した。7本と4本の2列になるかもしれない。3～5cmの丸太杭が打ち込まれている。杭は最長70cm残存している。杭の先端はSD01の岸の傾斜と平行しているのでSD01に関連するものであろう。

SD02

南北方向の小溝。幅50cm、深さ8cmで南側は浅くなり、形状が不定形となる。北側はSD01に切られる。土師器の小片が小ビニール袋半分ほど出土している。

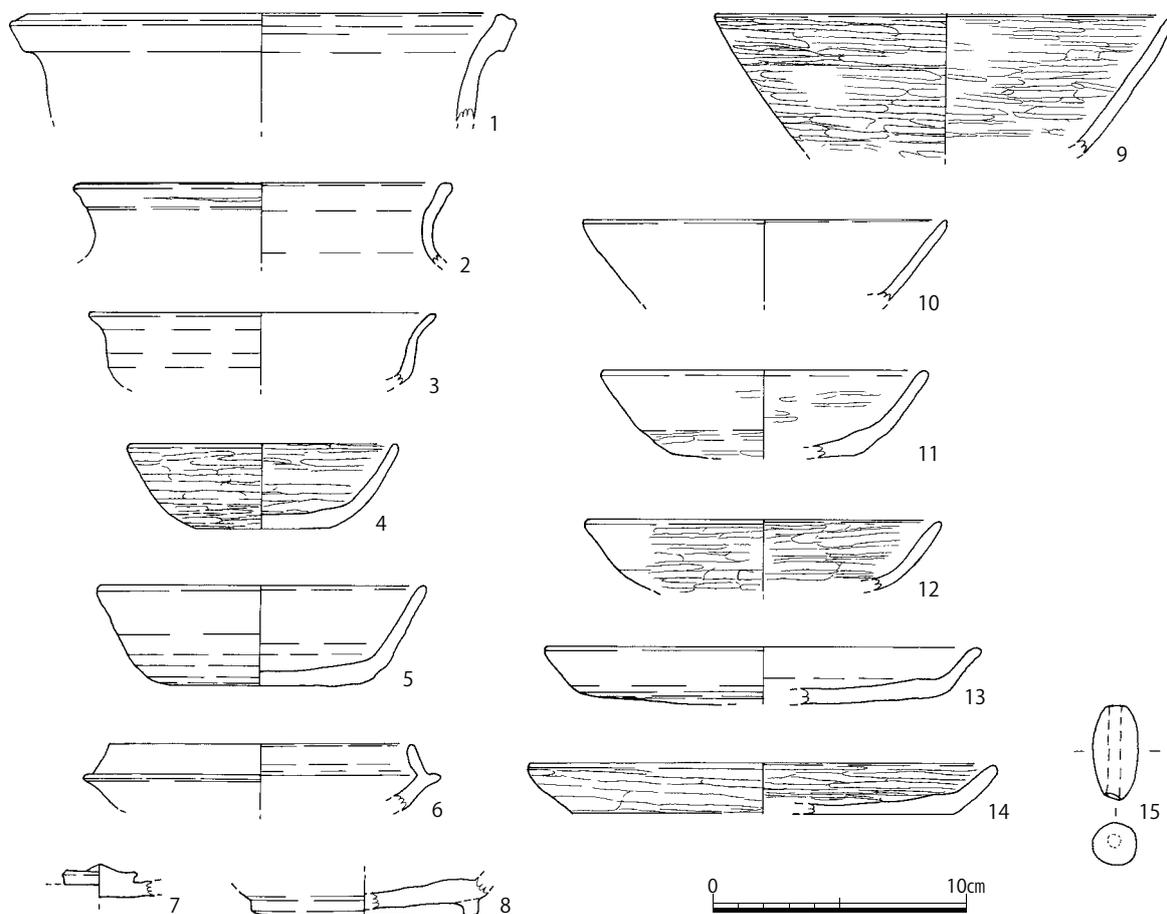


Fig. 7 SD01・03出土遺物実測図(1/3)

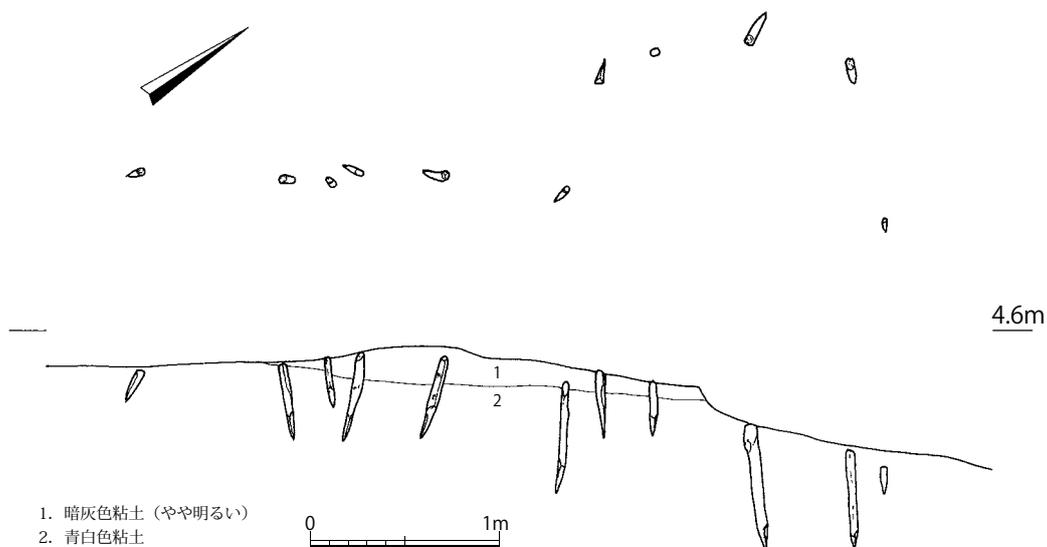


Fig.8 杭列A実測図 (1/40)

SX04

調査区中央やや東寄りで検出された10cmほどの段落ち。残存していたひとつ下の水田面かもしれない。

水田面

最初に述べた通り、第1面の水田は非常に残りが悪く、足跡状のくぼみは残っていない。また、畦畔とみられる高まりも2か所しか確認できなかった。いずれも南北方向で、高まりは10cmに満たない。

第1面水田面からの出土遺物をFig.9に示す。

16は須恵器の坏身である。残存率90%。口径13.3cm、高台径9.2cm、器高4.1cm。17は土師器の坏身である。残存率30%。器面は摩滅しているが内面にミガキ調整が認められる。外面体部下半はケズリの痕跡。復元高台径8.4cm、残存高5.3cm。18も土師器の坏身である。残存率30%。器面は摩滅しているが内面にミガキ調整が認められる。復元口径13.6cm、復元底径8.0cm、器高3.9cm。

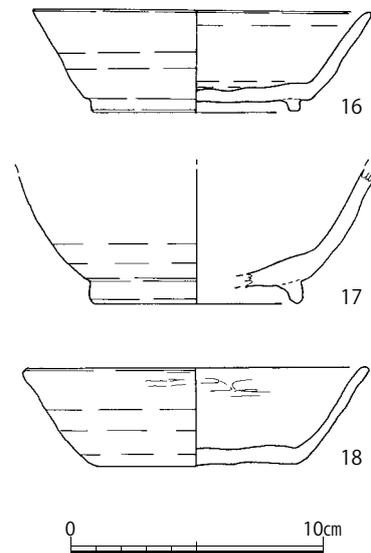


Fig.9 第1面水田出土
遺物実測図 (1/3)

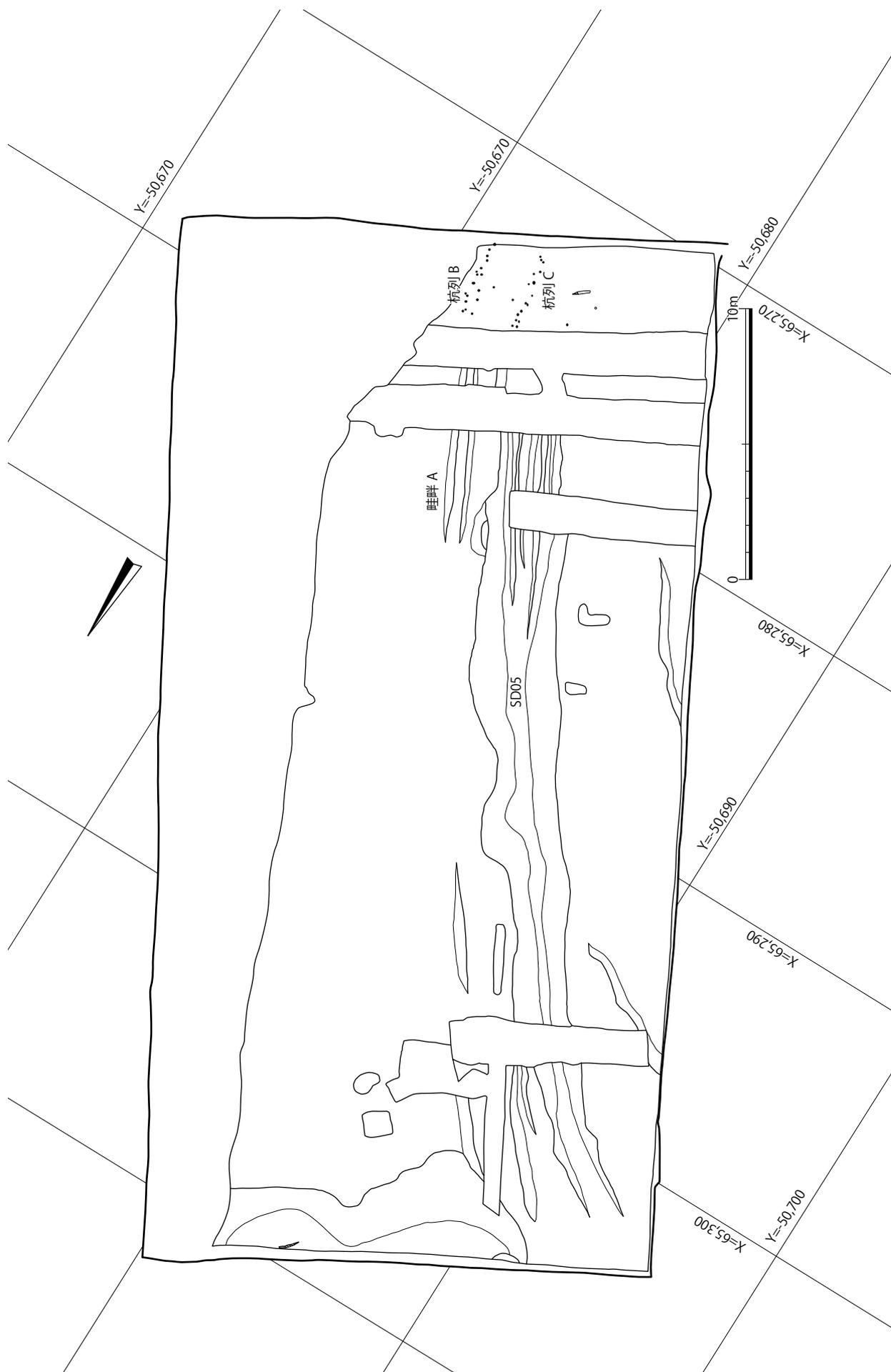


Fig.10 第2面遺構分布図 (1 / 200)

3. 第2面の調査

標高4.8～4.9mで第2面の調査を行った。Fig.3北壁土層図の25・26・27層、Fig.4南壁土層図の48層上面にあたる。

SD05

調査区中央やや西寄りで検出した南北方向の溝である。幅2～3m、深さ10～20cm。白色粗砂で埋没している。南側は3条に分かれる。北側は浅くなり確認できなくなる。土師器の小片が小ビニール袋半分ほど出土した。

水田面

第2面の水田面も足跡状のくぼみは認められず、畦畔の残りも悪い。畦畔Aは南北方向に6.5m分確認した。残りの良いところで幅1m、高さ10cmである。また、調査区北側にも帯状の高まりがあり、畦畔の可能性もある。水田の出土遺物は土師器の小片5点のみである。

杭列B・C

調査区南部の水田面で検出した杭列である。東側の杭列Bは2.5mの間に17本、西側の杭列Cは2.9mの間に16本確認された。3～6cmの丸太杭が打ち込まれている。杭は最長1.2m残存している。第1面のSD03に併行しているのでSD03に関連するものであろう。

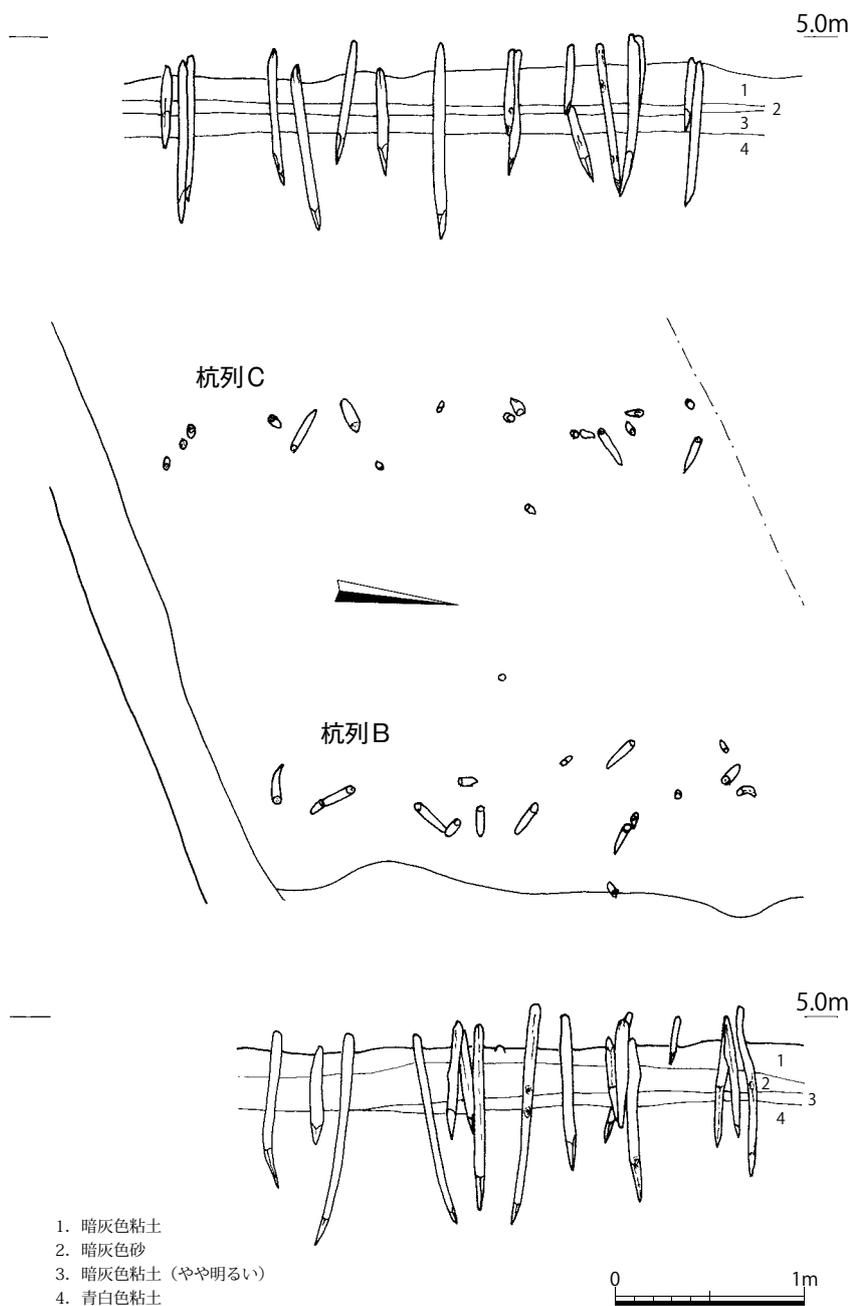


Fig.11 杭列B・C実測図 (1/40)

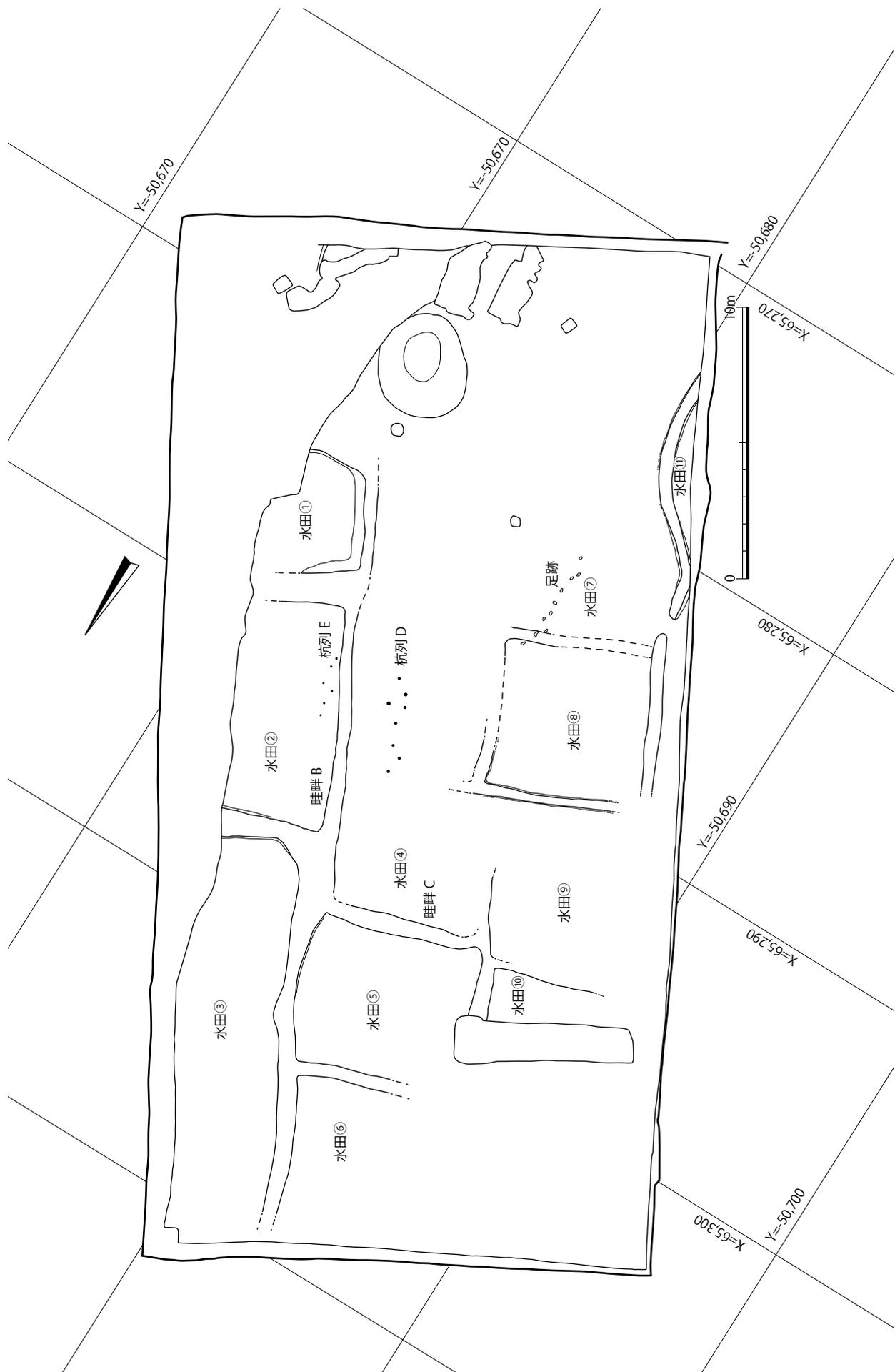


Fig.12 第3面遺構分布図 (1 / 200)

4. 第3面の調査

標高4.5～4.6mで第3面の調査を行った。Fig.3北壁土層図の29～32層、Fig.4南壁土層図の50層上面にあたる。

水田面

第3面の水田面は他の面に比べ残りが良く、足跡状のくぼみが部分的に残り、歩行を追えるところがある。畦畔は高まりはほとんどないものの、水田区画を復元できる部分がある。

水田は南北方向に3列確認できた。東側の列は東側をSD01に切られている。水田①は南北2.2m以上、東西2.0m以上。北に接する水田②は南北4.0m、東西2.0m以上。さらに北に接する水田③は南北7.5m以上、東西1.8m以上で北側は調査区外に延びる。東西方向の畦畔が確認できていないだけで、2～3枚の水田であろう。

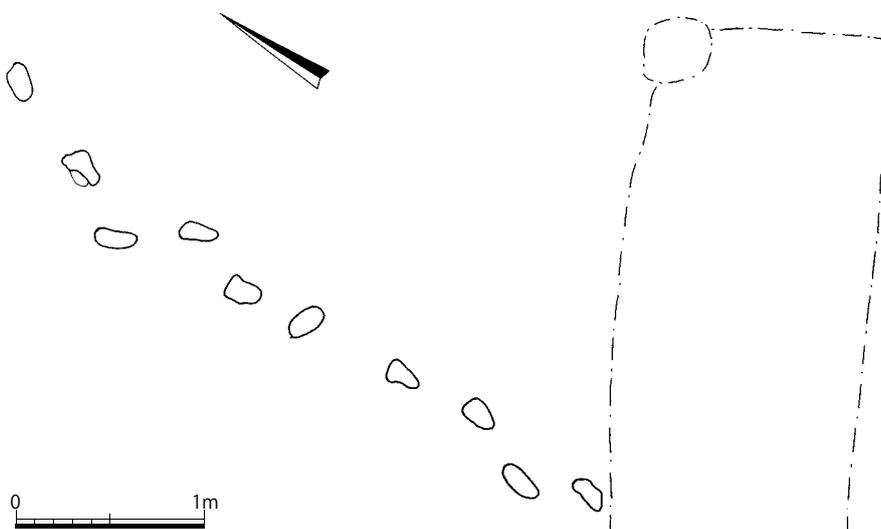


Fig.13 第3面水田足跡実測図 (1/40)

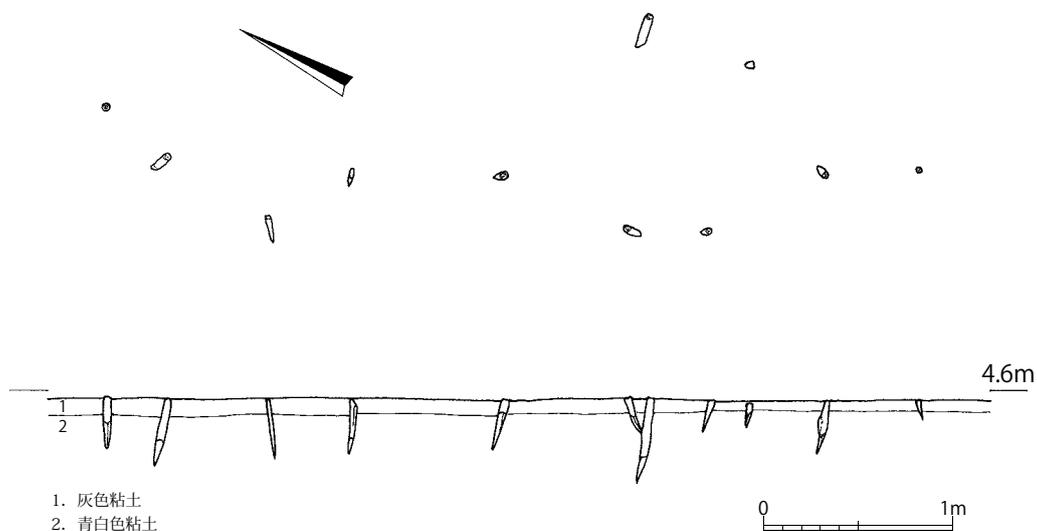


Fig.14 杭列D実測図 (1/40)

中央列の水田は3枚確認された。水田④は南側の畦畔が確認されておらず、東西2.3m。北に接する水田⑤は南北2.6m、東西3.1m。さらに北に接する水田⑥は西側の畦畔が確認されておらず、北側は調査区外に延びる。南北3.0m以上。

西側の列は4枚確認された。水田⑦は東側・南側の畦畔が確認できず規模不明。北へ向かう足跡が10歩分確認された。北に接する水田⑧は南北2.8m、東西2.7m。さらに北に接する水田⑨は西側の畦畔が確認されておらず、南北3.0m。さらに北側の水田⑩は北側・西側の畦畔が確認できず規模不明。

西側列の更に西側にもう一列水田が確認できる（水田⑪）。

水田の出土遺物は須恵器・土師器の小片が小ビニール袋1袋分である。

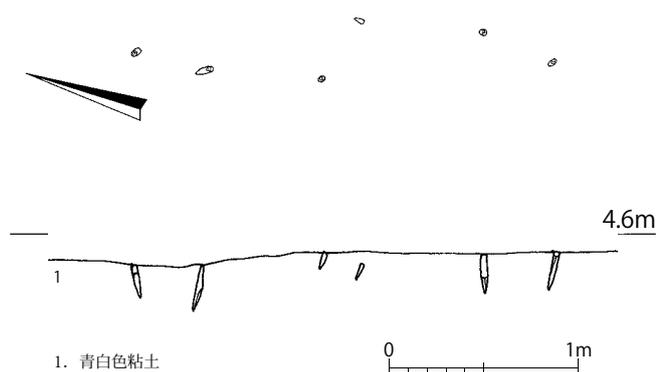


Fig.15 杭列E実測図(1/40)

杭列D

中央列の水田④の南で検出された南北方向の杭列である。4.3mの間に11本の杭を確認した。2～5cmの丸太杭が打ち込まれている。杭は最長50cm残存している。先端部分のみの杭もあり、第3面水田よりも上層より打ち込まれているものと考えられる。第1面水田の南側の畦畔の可能性のある高まりの延長上に位置しており、補強の杭かも知れない。

杭列E

東列の水田②で検出された南北方向の杭列である。2.3mの間に6本の杭を確認した。2～4cmの丸太杭が打ち込まれている。杭はいずれも先端部分のみであり、最長25cmしか残存していない。第3面水田よりも上層より打ち込まれているものと考えられる。第1面SD01に併行しているのでSD01に関連するものであろう。

Ⅲ ま と め

福岡空港内は1944（昭和19）年以降、飛行場という制約があり埋蔵文化財の空白地であった。空港西側に国際線ターミナルを移転するために行われた1991（平成3）年の試掘調査で雀居遺跡が発見され、低地部である空港内に遺跡があるということがはじめて確認された。以来、空港西側での施設建設に伴い確認調査が行われ、遺跡に影響がある場合は発掘調査（雀居遺跡2次～19次）が行われている。

また、滑走路部分でも掘削工事が行われる場合は夜間に工事立会を行い、遺跡の確認を続けている。しかしながら、面積が広大であるため詳細はまだ把握できていない。

今回の調査地点は上牟田遺跡という名称で空港北側を広く囲っていた埋蔵文化財包蔵地での初めての本格的な調査となった。上牟田遺跡は広すぎるため、今回大字東平尾に含まれる南側を席田平尾遺跡として分割した。

今回の調査では3面の水田面を確認することができた。

第1面の水田面は調査区東側を流れる流路の氾濫で埋没している。流路から出土する須恵器や土師器から8世紀後半を想定しているが、出土遺物が少なく確かではない。第2、第3面の水田は第1面水田をさかのぼるわけであるが、出土遺物が少なく時期の確定はできない。第3面水田から須恵器が出土しているので古墳時代後期以降であるのは間違いない。

席田郡の条里地割は西に37°振れるのであるが、今回の水田区画は第3面で20～25°と一致せず、かすかな畦畔が残る第1、第2面も一致しない。北側の席田青木遺跡第7次調査の水田と同じく地割施行前の水田なのであろうか。

今回確認された自然流路SD01は南側の久保園遺跡4次調査I区SD0002・Ⅲ・Ⅳ区SD0501と北側の席田平尾遺跡7次調査002流路の中間にあたる。ほぼ同時期であり、旧河川流路を復元するうえで重要な手掛かりとなった。

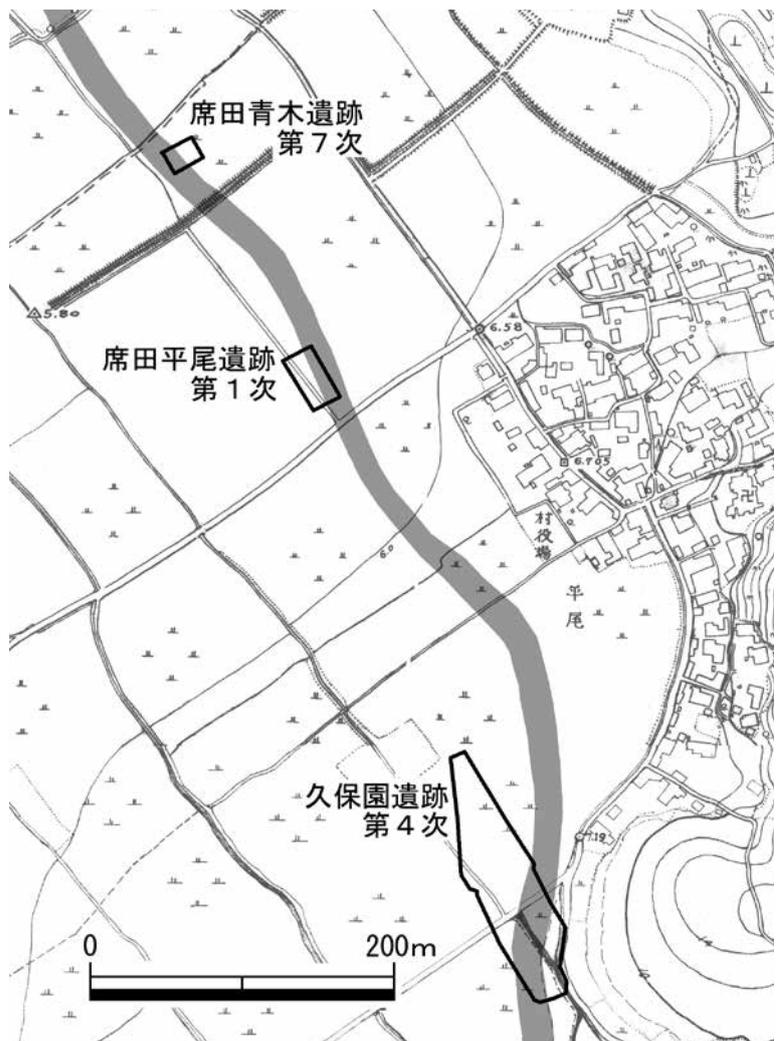


Fig.16 周辺調査区と推定旧流路（昭和初期地形図）（1/5,000）

圖 版



(1) 第1面水田 (南から)



(2) 調査区南壁SD01・SD03土層 (北から)



(1) 調査区北壁SD01土層 (南から)



(2) SD01中央土層 (南から)



(1) 調査区南壁SD01土層（北から）



(2) 調査区南壁SD03土層（北から）



(3) 杭列A西（南から）



(4) 杭列A東（南から）



(1) 第2面水田 (南から)



(2) 杭列B・C (北西から)



(3) 杭列B・C (南東から)



(4) 杭列B (東から)



(5) 杭列C (東から)



(1) SD05 (南から)



(2) 畦畔A (南から)



(1) 第3面水田 (南から)



(2) 畦畔B (南から)



(3) 畦畔B (北西から)



(4) 畦畔D (東から)



(5) 畦畔F (北から)



(1) 水田⑦足跡検出状況（南から）



(2) 水田⑦足跡掘削状況（南から）



(1) 水田⑦足跡掘削状況 (西から)



(2) 杭列D北 (西から)



(3) 杭列D南 (西から)



(4) 杭列E (西から)

報告書抄録

| ふりがな | むしろだひらおいせき | | | | | | | |
|----------------------|---|-------|---------------|---------------------|--------------------|---------------------------|------|--------------|
| 書名 | 席田平尾遺跡 | | | | | | | |
| 副書名 | 第1次調査報告 | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 福岡市埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 1404 | | | | | | | |
| 編著者名 | 田上勇一郎 | | | | | | | |
| 編集機関 | 福岡市教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒810-8621 福岡市中央区天神1丁目8-1 | | | | TEL 092-711-4667 | | | |
| 発行年月日 | 2020年3月25日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 東経 (世界測地系) | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 | |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| むしろだひらおいせき 席田平尾遺跡 | ふくおかけんふくおかし 福岡県福岡市 はかたくおおあざひがしひらお 博多区大字東平尾 | 40132 | 2894 | 33° 35' 15" | 130° 27' 15" | 20171018 ~ 20171228 | 740 | 車両整備 工場建設 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 席田平尾遺跡 | 生産 遺跡 | 古代 | 水田 杭列 自然流路 | 土師器 須恵器 杭 | | | | |
| 要 約 | <p>席田平尾遺跡の初めての調査である。 調査では3面の水田面を確認することができた。 第1面の水田は8世紀後半の遺物を含む流路の氾濫の粗砂で埋没する。畦畔の残りは悪く水田規模は確認できなかった。第2面の水田も畦畔の残りは悪く水田規模は確認できなかった。第3面の水田は畦畔の残りは悪かったが、いくつかの水田の規模を確認できた。また、水田面に残る足跡も確認できた。須恵器が出土していることから古墳時代後期以降の水田である。いずれの水田も席田郡の条里地割と一致せず、地割施行以前の水田と考えられる。 第1面で確認された自然流路は周辺の調査と合わせて旧河川流路を復元する手掛かりとなった。</p> | | | | | | | |

席田平尾遺跡 1

—第1次調査報告—
福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1404集

2020年3月25日

発 行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8-1
印 刷 正光印刷株式会社
福岡市西区周船寺3丁目28番1号

MUSHIRODA HIRAO SITE 1

– Results of the first excavation of the Mushiroda Hirao site –

Report of Archaeological Investigations of Fukuoka City, Vol.1404



2 0 2 0

THE BOARD OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY